

大阪探検隊

Osaka City Expeditionary party

通り名で道案内

(梅田・堺・長崎での事例)

住居を表示するには、大きく街区方式と道路方式があります。街区方式は、日本の各地域のほとんどで採用されているもので区画された地域に付けられ、道路方式は道路に接する建物等に付けられるもので欧米では一般的な方式であるといえます。

(国土交通省道路局のHP「通り名で道案内」：<http://www.mlit.go.jp/road/torimei/index.htm>)

大阪・梅田における地下街

大阪・梅田の地下街の通路や階段には、番号が付けられており、通路は南北軸をアルファベットで表示し、東西を数字で表示しています。

階段番号については、その通路番号に加え、出入口の位置によって特定のルールによって番号が割り振られています。

出入口番号は、通り名で道案内のシステムに沿ったもので、起点からの距離に対して割り振られており、起点を背に右側を奇数、左側を偶数とされています。

(参考HP：

<http://www.mlit.go.jp/road/torimei/toorina/kihon-youso.htm>)

大阪に精通された方でも、この仕組みを知っている人は少ないのではないのでしょうか。



上)階段番号は、都市サインにも掲載されている。
下)階段番号(ホワイトユウめだ)

堺における社会実験の様子

堺市では、10月～11月にかけて、通り名で道案内のシステムを採用した地域案内の社会実験が行われていました。

通りの路面には、その位置を表す番号と路線名が割り振られたシートが付設され、照明や電柱などの柱状の施設にも路面と同様の情報とともに、QRコードを用いてウェブアクセスする案内が実施されていました。



路面に付設された通り名

また、フェニックス通りにも同様の情報付設シートが添付され、通り名で案内のシステムによる案内システムが行われています。

(参考 HP : <http://mmnavi.jp/sakai/>)

右)フェニックス通り照明灯

左)電柱に付設された通り名と位置番号(#西36)



長崎での社会実験の様子

長崎市でも「長崎さるく博 (パビリオンをつくらない日本で初めてのまち歩き博覧会。「さるく」とは、ぶらぶら歩くという長崎弁)」の開催に合わせて、4月～10月にかけて、通り名で道案内のシステムを採用した社会実験が行われました。

眼鏡橋付近の限られた地区で実施され、路面や照明・電柱などの柱状の施設に通り名とその位置を表す番号が割り振られたシートが貼られています。

さるく博で設定されたモデルルートを歩くのに、各交差点の路面に貼られた通り名のシートが大変役に立ちました。

(参考HP : <http://www.mlit.go.jp/road/torimei/toorina/jikken.htm>)



上) 路面に付設された通り名シートには、通り名、位置番号、拠点からの距離が掲載されている。
中) 交差点のシート
下) 標識に通り名と位置番号